

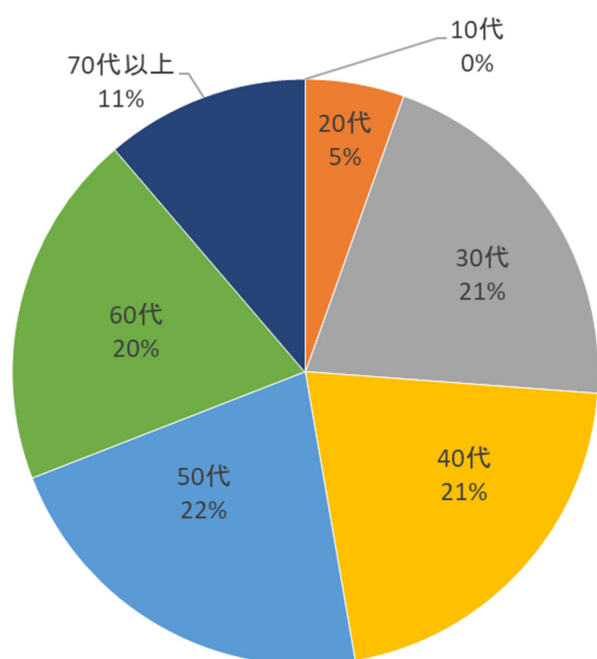
## 脱炭素（地球温暖化対策）に関する意識調査

調査目的： 令和3年4月に国が「2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2030年度までに温室効果ガス排出量を2013年度比で46%削減、さらに50%の高みに向けて調整を続けていく」と表明したことを踏まえ、県では令和3年3月に策定した「第2次長崎県地球温暖化（気候変動）対策実行計画」を令和5年度に見直すこととしています。今回、地球温暖化に関する県民の意識などを把握し、新たに必要となる取組等、計画の見直しに反映することを目的に実施するものです。

調査期間： 令和5年2月13日～2月27日（15日間）  
調査対象： ながさきWEB県政アンケート全モニター（338名）  
回答状況： 回答者275名（回答率81.4%）  
調査担当課： 県民生活環境部 地域環境課

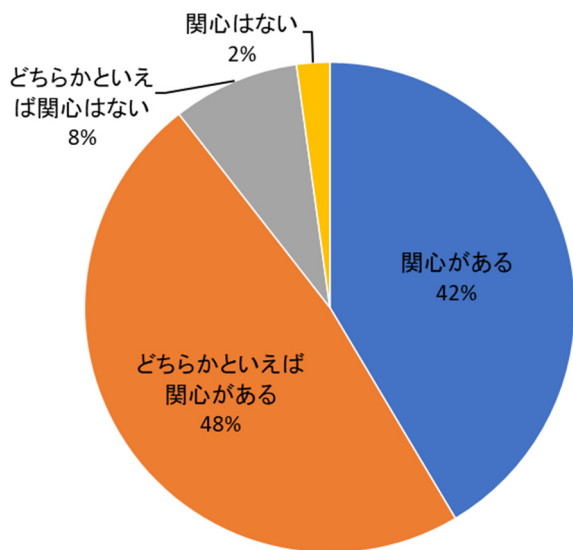
### ■回答者の属性

#### 【年齢構成比率】



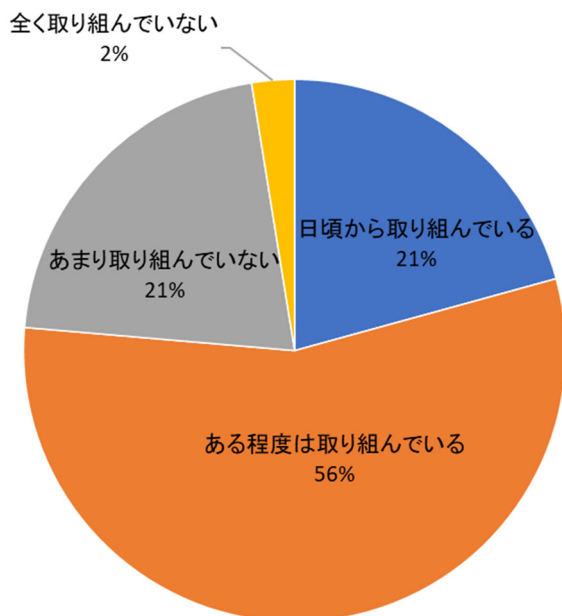
年齢	人数	構成比
10代	0	0%
20代	15	5%
30代	57	21%
40代	58	21%
50代	60	22%
60代	54	20%
70代以上	31	11%
合計	275	100%

**Q1. あなたは、地球温暖化対策について関心がありますか。（1つ選択）**



選択肢	回答者数	構成比
関心がある	114	41%
どちらかといえば関心がある	132	48%
どちらかといえば関心はない	23	8%
関心はない	6	2%
合計	275	100%

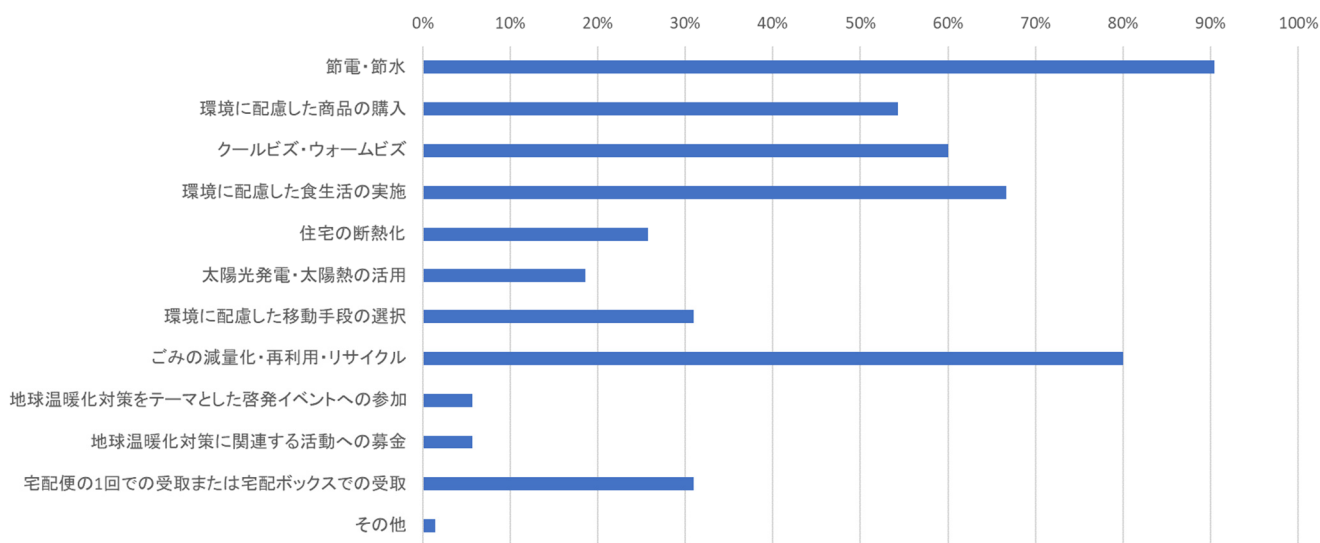
**Q2. あなたは、現在、地球温暖化対策にどの程度取り組んでいますか。（1つ選択）**



選択肢	回答者数	構成比
日頃から取り組んでいる	57	21%
ある程度は取り組んでいる	153	56%
あまり取り組んでいない	58	21%
全く取り組んでいない	7	3%
合計	275	100%

### Q3. あなたは、地球温暖化対策としてどのような取組をしていますか。(複数選択可)

※Q2で「日頃から取り組んでいる」、「ある程度は取り組んでいる」を選択した方への設問



選択肢	回答者数	構成比
節電・節水	190	90%
環境に配慮した商品の購入	114	54%
クールビズ・ウォームビズ	126	60%
環境に配慮した食生活の実施	140	67%
住宅の断熱化	54	26%
太陽光発電・太陽熱の活用	39	19%
環境に配慮した移動手段の選択	65	31%
ごみの減量化・再利用・リサイクル	168	80%
地球温暖化対策をテーマとした啓発イベントへの参加	12	6%
地球温暖化対策に関連する活動への募金	12	6%
宅配便の1回での受取または宅配ボックスでの受取	65	31%
その他	3	1%

※構成比は回答者数（210）に対する割合

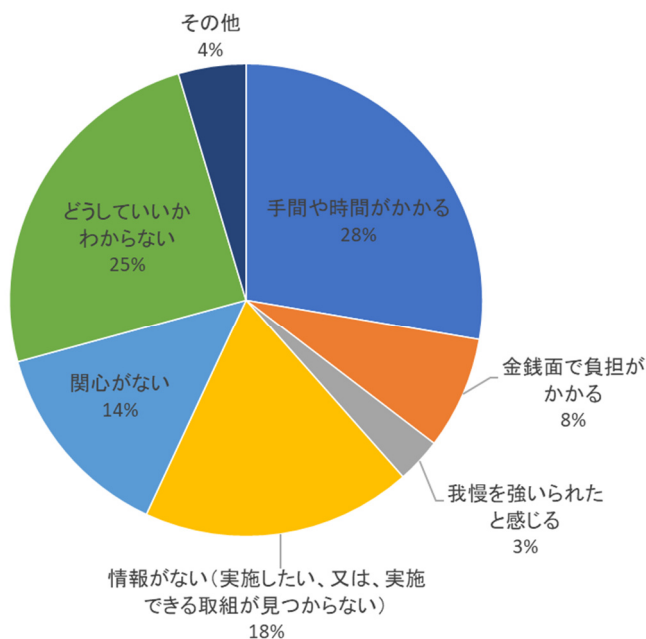
#### <その他の回答>

- ・再生可能エネルギーの採用、勉強
- ・グリーンカーテン
- ・森林破壊につながる肉食をしない

**Q4. 地球温暖化に取り組んでいない理由として最も当てはまるものを選んでください。**

**(1つ選択)**

※Q2で「あまり取り組んでいない」、「全く取り組んでいない」を選択した方への設問

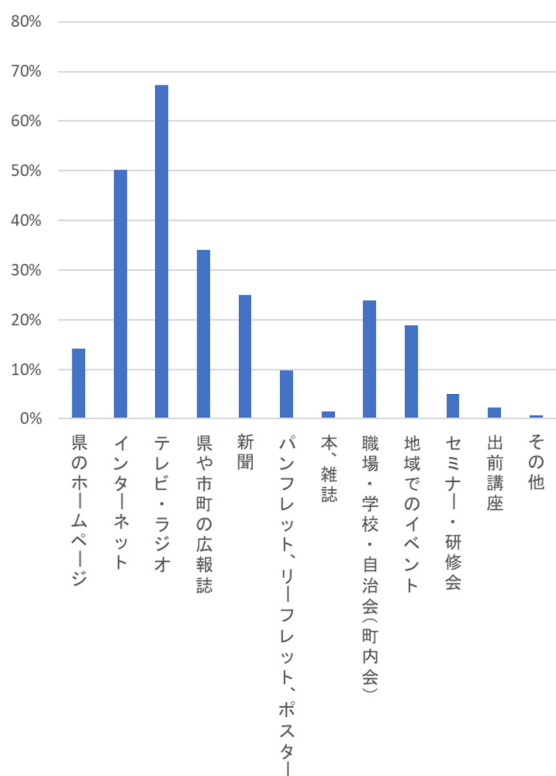


選択肢	回答者数	構成比
手間や時間がかかる	18	28%
金銭面で負担がかかる	5	8%
我慢を強いられたと感じる	2	3%
情報がない(実施したい、又は、実施できる取組が見つからない)	12	18%
関心がない	9	14%
どうしていいかわからない	16	25%
その他	3	5%
合計	65	100%

<その他の回答>

- ・そもそも地球温暖化にはなっていない
- ・地球温暖化の原因は二酸化炭素ではない

**Q5. 国や県などの地球温暖化対策をより多くの人に認識してもらうために有効と思う媒体や機会は何ですか。(3つまで選択可)**



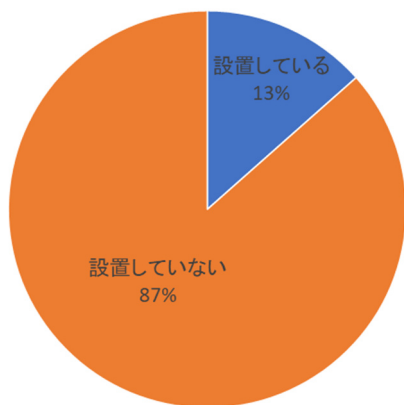
選択肢	回答者数	構成比
県のホームページ	39	14%
インターネット (県のホームページを除く。 SNS、YouTubeなど。)	138	50%
テレビ・ラジオ	185	67%
県や市町の広報誌	94	34%
新聞	69	25%
パンフレット、リーフレット、ポスター	27	10%
本、雑誌	4	1%
職場・学校・自治会(町内会)	66	24%
地域でのイベント	52	19%
セミナー・研修会	14	5%
出前講座	6	2%
その他	2	1%

※構成比は回答者数(275)に対する割合

<その他の回答>

- ・内容も大事で、意識が浸透していないならば、その理由の分析も必要。
- ・県内の個人に発信者になってもらうことが大事。

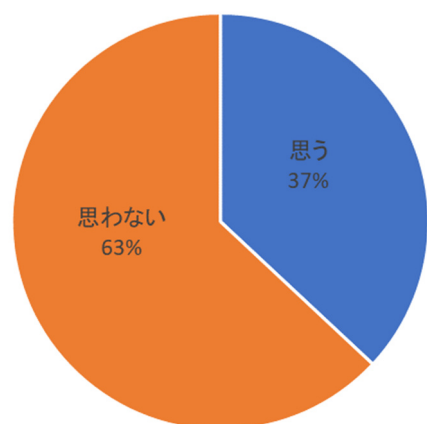
Q6. あなたは、自宅に太陽光発電設備を設置していますか。(1つ選択)



選択肢	回答者数	構成比
設置している	37	13%
設置していない	238	87%
合計	275	100%

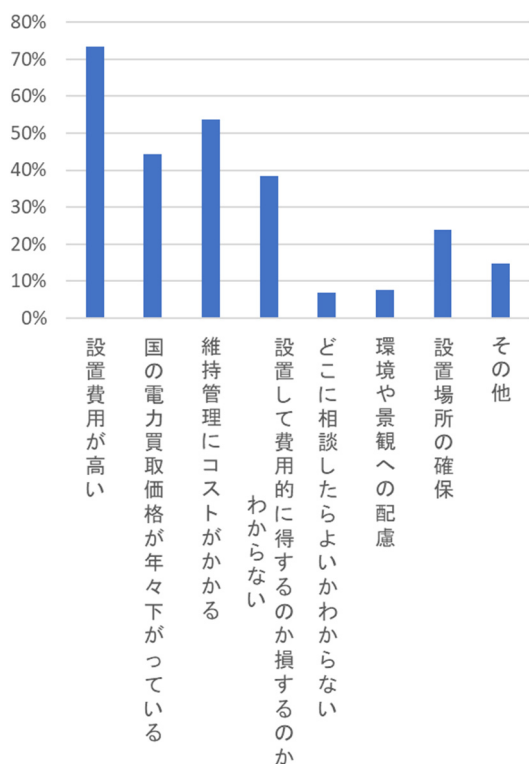
Q7. あなたは、自宅に太陽光発電設備を設置したいと思いますか。(1つ選択)

※Q6で「設置していない」を選択した方への設問



選択肢	回答者数	構成比
思う	88	37%
思わない	150	63%
合計	238	100%

Q8. あなたが、自宅に太陽光発電設備を設置するとした場合の課題は何だと思いますか。(複数選択可)



選択肢	回答者数	構成比
設置費用が高い	202	73%
国の電力買取価格が年々下がっている	122	44%
維持管理にコストがかかる	148	54%
設置して費用的に得するか損するかわからない	106	39%
どこに相談したらよいかわからない	19	7%
環境や景観への配慮	21	8%
設置場所の確保	66	24%
その他	41	15%

※構成比は回答者数(275)に対する割合

<その他の回答>

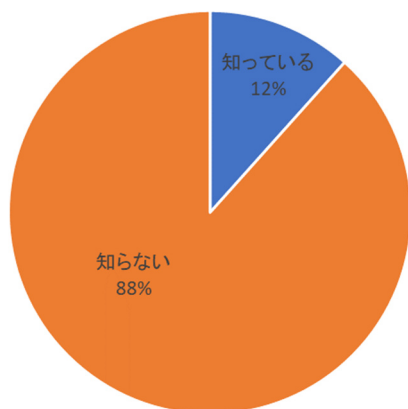
- ・集合住宅、賃貸住宅等のため設置できない
- ・使用済みパネルの廃棄問題、ライフサイクル
- ・屋根の耐久性に不安、家が古い
- ・採算が取れない、コスト回収の現状を知りたい
- ・台風による破損や被害の心配

など

## Q9. あなたは、長崎県地球温暖化防止活動推進センターを知っていますか。(1つ選択)

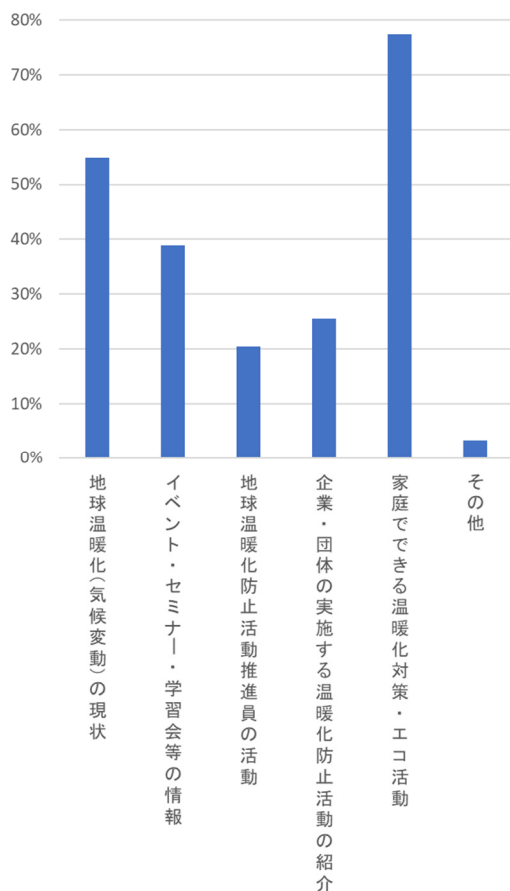
(補足)

長崎県地球温暖化防止活動推進センターでは、県民、事業者や行政と連携して、地球温暖化防止活動の普及のため、地球温暖化の現状などの理解促進や家庭で実践できる温暖化防止活動などの情報を発信しています。



選択肢	回答者数	構成比
知っている	32	12%
知らない	243	88%
合計	275	100%

## Q10. あなたは、長崎県地球温暖化防止活動推進センターに今後どのような情報を提供してほしいですか。(複数選択可)



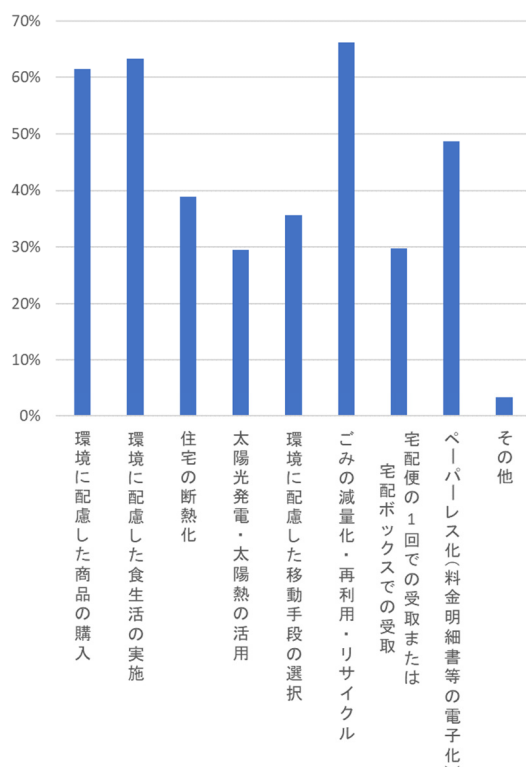
選択肢	回答者数	構成比
地球温暖化(気候変動)の現状	151	55%
イベント・セミナー・学習会等の情報	107	39%
地球温暖化防止活動推進員の活動	56	20%
企業・団体の実施する温暖化防止活動の紹介	70	25%
家庭でできる温暖化対策・エコ活動	213	77%
その他	9	3%

※構成比は回答者数(275)に対する割合

<その他の回答>

- ・ビジネスとして成立していることを伝えていき中小企業を本気にさせること。
- ・長崎県の特徴を踏まえた課題や取組の情報発信
- ・太陽光発電設備について
- ・効果的なリサイクルの提案
- ・気候変動問題、県民に勉強させること
- ・県の目標値のPRと、それに関する県の取組、取組の成果と検証、見直しなど、PDCAをまわすことが必要
- ・温暖化はしていない

**Q11. あなたが、今後特に個人で取り組む必要があると思う地球温暖化対策は次のうちどれですか。（複数選択可）**



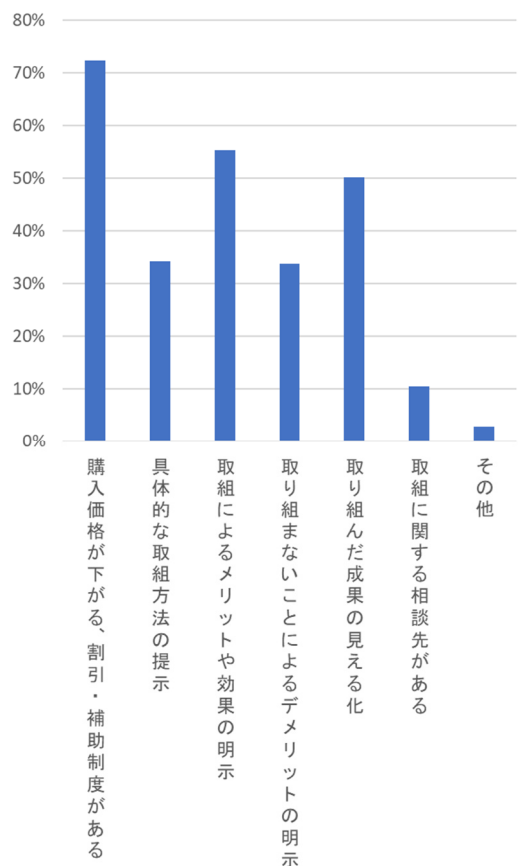
選択肢	回答者数	構成比
環境に配慮した商品の購入	169	61%
環境に配慮した食生活の実施	174	63%
住宅の断熱化	107	39%
太陽光発電・太陽熱の活用	81	29%
環境に配慮した移動手段の選択	98	36%
ごみの減量化・再利用・リサイクル	182	66%
宅配便の1回での受取または宅配ボックスでの受取	82	30%
ペーパーレス化（料金明細書等の電子化）	134	49%
その他	9	3%

※構成比は回答者数（275）に対する割合

<その他の回答>

- ・世の中全体で「無駄なもの、こと」をなくす
- ・森林破壊につながる肉食をやめる、減らす
- ・ものを使用する際のライフサイクルでの CO<sub>2</sub> 削減を明示してほしい
- ・エビデンスに基づいた政策立案が必要
- ・国内で生産できる米や乳製品を輸入する政策をやめる
- ・本当に地球温暖化があるのかを調べる

**Q12. どのようなきっかけがあれば、Q11 で選択した取組を実践できるようになるとおもいますか。（複数選択可）**



選択肢	回答者数	構成比
購入価格が下がる、割引・補助制度がある	199	72%
具体的な取組方法の提示	94	34%
取組によるメリットや効果の明示	152	55%
取り組まないことによるデメリットの明示	93	34%
取り組んだ成果の見える化	138	50%
取組に関する相談先がある	29	11%
その他	8	3%

※構成比は回答者数（275）に対する割合

<その他の回答>

- ・積極的に取り組んだことによるお得なプレゼント
- ・地域ごとの温暖化の影響の情報開示
- ・賃貸の住宅でも取り組める補助金キャンペーン
- ・中高生も楽しめるイベント
- ・ものを使用する際のライフサイクルでの CO<sub>2</sub> 削減を明示してほしい
- ・温暖化はしていない

## Q13. 地球温暖化対策（省エネや再エネ対策など）に関して、県の施策として求めるものは何ですか。（自由記述）

### 【ご意見（一部要約）】

#### <周知啓発に関すること>

- ・店舗や図書館などの公共施設で情報に触れる機会の提供
- ・県庁での率先取組
- ・啓発イベント等による県民への周知
- ・個人でも取り組めることの紹介、効果の見える化
- ・エコ活動がビジネスとして成立していることを伝えるべき
- ・善意に訴えるのではなく、得策であることを伝えるべき
- ・今後に対する危機感と、必要な対策への共通認識をもち、当たり前に行動する意識づくり
- ・幅広い世代の人が見るテレビで分かりやすい放送をする
- ・啓発動画を YouTube 等でいつでも見れるようにし、学習教材として利用
- ・防災や減災など身近なこととして捉えやすい切り口からのアプローチ
- ・対策に取り組む場合と取り組まない場合の様々な面から見た違いを示す

#### <太陽光発電、再生可能エネルギーに関すること>

- ・太陽光発電設備設置の推進
- ・太陽光発電、蓄電池の購入補助制度
- ・太陽光発電を無料設置できるくらいのこととしないと温暖化は止められない
- ・太陽光発電設置後の台風等による被害の心配、保険や共済があると良い
- ・太陽光発電設置義務化などを実施しない
- ・バイオマス発電など再エネ発電への補助
- ・長崎県の地勢に応じた優しいエネルギー対策
- ・クリーンエネルギーを基幹産業のひとつとして企業誘致や産学官の強化
- ・離島振興と温暖化対策を加味した洋上風力発電への取組

#### <省エネ家電、電気自動車等に関すること>

- ・エアコン、冷蔵庫などの省エネ家電買い替え補助の実施、拡大
- ・古い住宅の断熱化への補助金の拡大
- ・断熱化された県営住宅、市営住宅が増えること
- ・宅配ボックスへの助成金
- ・電気自動車購入時の補助金の拡充

#### <節電等の取組に関すること>

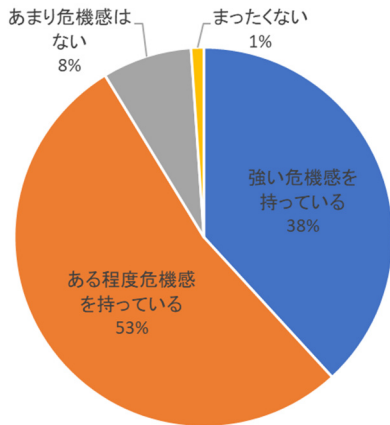
- ・官庁での節電のため残業をなくす
- ・スーパーなどへの空調管理助言
- ・商業施設など大きな店舗が温暖化対策を頑張ることにより、各家庭も気にしていけるのでは
- ・節電、節水に取り組む企業や個人事業主に対する税金等の優遇措置
- ・ある程度義務化する、やるべきことを明確化すること（特に車の利用など、日々の習慣になっているものを強制力もメリットもなく転換することは困難）
- ・公共交通機関の充実
- ・自転車に乗りやすくなるような駐輪場や道路の整備
- ・いろんな活動と並行して、「知らない間に取り組んでいた」となるような、楽しみながら取り組めるもの
- ・住宅密集地では乗り合いタクシーへの援助等があると利用しやすいのでは
- ・健康と環境を組み合わせた取組（自分自身に直接影響する健康の視点が必要で、環境だけでは他人事）
- ・地球温暖化対策に取り組んでいる家庭にはポイントを付与して県産品などのプレゼントをしてほしい

#### <その他のご意見>

- ・観光と地球温暖化対策を結び付けた施策
- ・他県の先進的、効果的な事例を取り入れる
- ・県内市町との連携強化による施策の推進
- ・市町への対策支援モデル化
- ・なるべく費用をかけず、知恵と工夫と国民の協力で進めてほしい
- ・ものを使用するときのライフサイクルでの CO<sub>2</sub> 削減効果を分かりやすく明示してほしい
- ・市町や地域の NGO の主体的な活動支援、サポートする施策や助成金の支給



**Q14. 地球温暖化の影響による災害や熱中症などの高リスク化に対し、どの程度危機感を持っていますか。(1つ選択)**



選択肢	回答者数	構成比
強い危機感を持っている	105	38%
ある程度危機感を持っている	146	53%
あまり危機感はない	21	8%
まったくない	3	1%
合計	275	100%

**Q15. Q14 のリスクに対し、防災、熱中症対策が気候変動への「適応策」と言われていることを知っていますか。(1つ選択)**

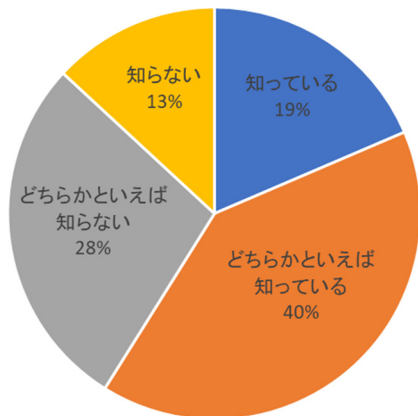
(補足)

地球温暖化をもたらす温室効果ガスを削減するための対策（緩和策）に対して、既に生じている気候変動の影響や将来予測される気候変動の影響を予防・軽減するための対策のことを「適応策」といいます。

例えば、個人でできる取組として、防災対策（ハザードマップの確認、防災グッズの備えなど）、熱中症対策（こまめな水分補給、適切な冷房使用など）があります。

その他、高温に強い作物や品種への変更、節水・雨水使用、治水対策などがあります。

緩和策と適応策は車の両輪に例えられるように、どちらも必要な取組です。



選択肢	回答者数	構成比
知っている	51	19%
どちらかといえば知っている	111	40%
どちらかといえば知らない	77	28%
知らない	36	13%
合計	275	100%

今後の参考にさせていただきます。ありがとうございました。